

民医連厚生事業協



2026年

1月
第213号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4

平和と労働センター6F

TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652

Eメール:k-tayori@min-iren.gr.jp

(共済だより応募用)

kyousai@min-iren.gr.jp

(厚生事業協宛)

ホームページ:https://min-jigyo.or.jp

バックナンバーの記事(一部のみ)はこちらから



迎春



いわさきちひろ「大きなリボンの少女」(1967年) (14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしています)

主な記事

■ 新春インタビュー 自分らしく もっと輝ける年に

柳沢 深志・手塚 あづみ・小島 嵩史・佐伯 道代

2025年度
スポーツ文化企画
のお知らせ

[https://www.
min-jigyo.or.jp](https://www.min-jigyo.or.jp)

■ 新年のごあいさつ

理事長 柳沢 深志

■ 伝えていきたい私の民医連⑰

元全日本民医連歯科部部長 みなと歯科診療所 江原 雅博

■ いま、なぜ憲法改悪なのか パートⅡ⑯

若手弁護士の会

■ 縮図からみる世界⑨ テレビドラマとは時代を映す鏡だ

斎藤 貴男

■ 沖縄に連帯して

瀬長 和男(沖縄)

※QRコードは上部にあります。

新年のごあいさつ

理事長 柳沢 深志（石川・城北病院）

全国の民医連職員のみなさん。あけましておめでとうございます。

2026年新春を迎えました。初夢は見ましたか。今年は何をしましょうか。

この世界に生きている人々が、どこに住んでいても、どんな病気や障がいがあっても、外国に由来のある方でも、性や性の指向が違っても、大人でも高齢でも子どもでも、誰でもその人らしくあることが尊重される、そんな社会を夢見ます。



まだお若い患者さんが、長期の入院をしています。生まれつきの障がいがあり、歩くこともできず、上手にしゃべることも苦手。地元にいた時はそれでも仲の良い友人と会って楽しむことができました。

そんな中での震災。自宅での生活ができなくなり、震災から2年たとうとしていますが遠く離れた病院での生活が続き家に帰ることはできません。

この方がある曰、大きな声を上げていました。すると、スタッフが

「○○さん ありがとう。わかったよ」

と言って、近くにいた他の患者さんに椅子を用意してくれました。私には何がおこったのかしばらく理解ができませんでした。この患者さんは、周りに気を配り、高齢の足が弱い患者さんが座る椅子が見当たらず困っていることをスタッフに伝えてくれたのです。しかも、スタッフはそのことをすぐに理解できたのです。

誰もが、誰かと関わりながら生きている、その場を共有している。そんな相互性を感じる時、いま、民医連が全国で取り組んでいる「ケアの倫理」カフェで、あらためて学ばれます。

誰もが尊重される社会。

人が憎みあい、殺しあう戦争や暴力とは反対の世界です。

いまだに、ウクライナでは、パレスチナでは、そして多くの国では、戦争や暴力が続いている。

戦争や暴力を肯定し突き進む社会は、人びとを分断し、軍事にお金をかけ、民主主義をないがしろにする社会です。排外主義とか、防衛費の天井知らずの上昇など、こういったことにしっかりNOと言っていきたい。

『共済だより』が、今年もみなさんの豊かな情報発信の場として、全国の民医連職員の想いとつながりを大切に全国津々浦々の事業所、職員に届きますように。

全国や法人、事業所の交流企画も増えてきました。ぜひ、ご参加いただき、おおいに交流しましょう。

員のために災害見舞金給付などを行つてきました（2011年東日本大震災6586万円、2016年熊本地震1358万円）。民医連で働くすべての職員が、共済を通して困っている職員への助け合いも行つてきました。

柳沢・みんなで助け合おうというが共済なのですね。困っている人がいるのだったら、そこに行つてみんなで

助け合おう、寄り添い合おうというのが民医連の理念であるので、共済の助け合いの考え方は、民医連の理念とも共通するのかなと思います。

いま、思つてること感じるこ



手塚あづみさん

「幼い頃、入院した時、食事を残してしまつたことが管理栄養士になろうと思ったきっかけ」。6年ぶりに開催された全国ジャンボリー兵庫・全国事務局。

小島.. そうですね。実は僕の世代はちょうど高校に入つた年にコロナが

災害に関わらず、困つている人がいたら助け合う、みんなで協力し合おうということは学生さんや若い職員から見て、どう見えるのでしょうか。



いな風潮が、特に若い世代も含めて広がつてゐるような気がしてます。手塚・民医連で働いているからこそ、助け合いとか、自然とできるのでしうね。仕事以外に外に出た時に、何か他人事といふか、自分に一番直面することなのに、あんまり考えていない、消極的な人が多くなつてしまつてゐるのかなと感じます。周りの友達の話を聞いていても、なかなかいないです。

実は、高校生の頃に入隊したマーチングバンドにいまも所属している

のですけど、なかには高校生もいて、みんな思つていることはあるけど、それを前に発言するというのが年々少なくなつてゐるなど感じていてます。

普段から自分から発信するということをあまりしないといふのは感じます。できなくなつてゐるといふのか。

部活動とかもどんどん制限されちゃつて、やりたいことがやれなくなつてきている環境もあるのかな。

佐伯.. 何とかは美味しいよねとか、あれこれは楽しいよねとか、表面的なものは割と仲良くするけど、ちょっと深い話は避けたがりますよね。でも、SNSとかはすごい盛んで、そういう意味での発信といふの

来た世代だつたので、部活とかもほとんどできなかつた。修学旅行もなくなつちやつた。何かやりたくても何もできないし、何をやればいいかわからない高校3年間を過ごしました。大学に入つてコロナ規制が緩くなりましたが、それまで何かやりたいことを我慢しなくてはいけないとか、やりたいことを工夫しながらやるみたいな経験ができなかつたので、大学である意味、自由な空間に入つた時に、いきなり何をやればいいかわからない状態でした。世代的な問題かもしれないんですけど、僕らの学年とかはこういう経験があるかもしれませんですね。

そのようなことからでしようか、助け合つていう前提がちょっとずつ薄くなつてきているような気はしています。また、社会全体に自己責任論、自分のせい、自分だけはみた

はすごくしている。でも炎上とかしてしまったのが嫌で、うまく使い分けているのでしょうか。

ところで、ジャンボリーの活動や、いまやっていることを聞かせてもらいますか。

ジャンボリー、医学生のつどいで



手塚…2年前はジャンボリーの全国

実行委員をやっていました。最初はずつとリモート会議で、そのこともあってか、いざ対面になつた時に実行委員会で話していくもなかなか本音で打ち解けることが見えづらかったですね。ただ、きっかけとか、場を設ければ、堰を切ったように話すんです。

全国事務局になつて、悩みながらもコミュニケーション、関係性を深めるようにしてきました。そんな時間、空間を共有することで、与えられたことで終わりではなくて、自分たちがある意味自由に、そして、能動的になってきているというのを感じますね。

言い合える環境というのは心地いい。社会人になつてから新たにこころ許せる人と出会えるつてなかなかないと思いますよ。ジャンボリーの場だからこそ、すごく仲良くなつた

人たちもいますしね。

本番を終えて達成感と疲労感と、寂しさと、いろんな感情が押し寄せできました。1日目は実行委員もすごく緊張していましたが、夕食交流会で実行委員の緊張がほぐれてきたら、参加者のみなさんも自然と笑顔が増えてきて…人の感情って伝染するのだなと感じました(笑)。

本番3日間、もちろん完璧にはいかなかつたのですが、実行委員一人ひとりがよく考え、臨機応変に対応し、お互いが協力し合つた結果、無事全国ジャンボリーを終えることができたと思います。

実行委員同士サポートし合えたのも、2年近くいっしょに活動してで

きた信頼関係があつたからこそだと思います。500人規模の全国ジャンボリーを作り上げることができたことはほんとうにすごいこと。実行委員一人ひとりが誇りに思つてほし



いなと思いますし、私自身も誇りに思いたいと思います。みんなに会えたことがかけがえのない宝物。感謝の気持ちでいっぱいです。

小島…昨年の9月、初めて学生向けの全国レベルのイベント「プレつどい大阪」に参加しました。全国の民医連の奨学生の方つて、平和活動にすごく興味を持つていてる方とか、反核医師の会とか、そういう平和団体といつしょにやつていてる学生とか

多いですね。医学生という立場で民医連が掲げている平和、人権、無差別平等の医療とかにふれ、将来、どういう医者になるかというのを考えることができる貴重な機会でした。

今年は、どんな年に



柳沢…社会の分断がものすごい勢いで進んでいますね。外国人と日本人、

健康に不安がない人と障がいを持つていてる人、若い人と高齢者の分断と

か…。高齢者は尊厳死の法制化とい
う、社会にとつて無駄な命だとなつ
たら、もう社会から消えてください
というようなことまで言われてきて
いる。ほんとうにそんなことを許し
ていいのかっていうのは、日本の医
学界とか医療、介護の従事者とかが
拳をあげて反対しなきやいけないの
ではないかと思っています。

して高齢者やいのちを守るために、
尊厳死の法制化なんて絶対だめだと
論陣を張らなきやいけないと思って
います。

そういうためにはやっぱり自分は
医師としてがんばりたいなっていう
のが今年の抱負です。

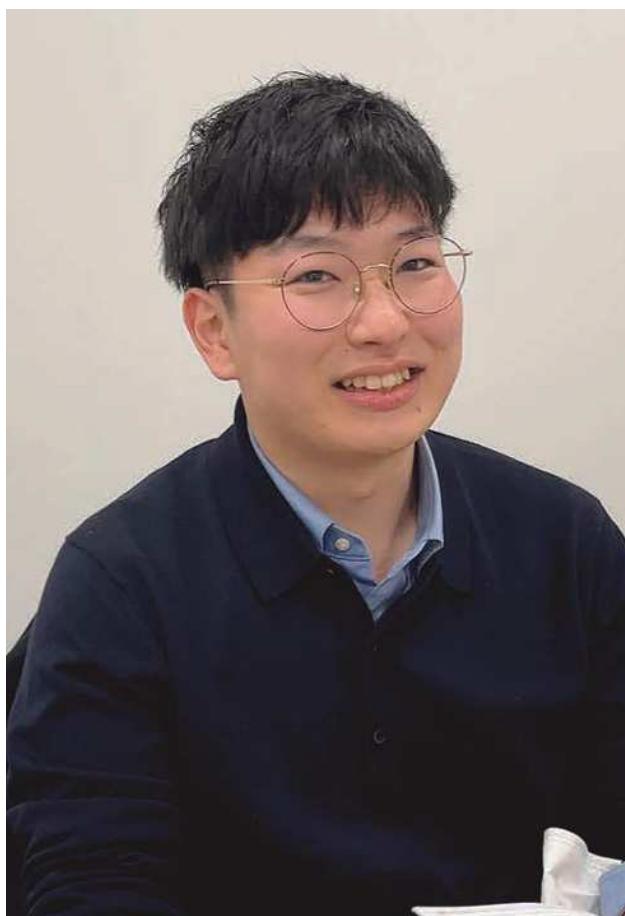
おふたりはどのよう年にしたい
ですか。

だつて、それは医者とか医療従事
者しかできない。やっぱり専門家と

小島…OSCE、CBTという、医
学部の臨床実習に行くための試験が

手塚…食べるのが好きで
病気になっている方が多
いなって思ってるんです。
私もすごく食べるのが好
きなので、すごい気持ち
もわかるし、だからこそ
やっぱり食事制限なんて
されたらたまたまつたもの
じゃない。代替案を提案
したり、ちょっとご褒美
的なところもありながら、
患者さんといっしょに取
り組めるように提案して
いきたいです。

患者さんは、それぞ
れの性格やそれぞれの背
景があります。私のこと
も知つてもらつて、この
人に話したいな、この人
に相談したいなと思われ
るような仕事をしていき
たいなと思っています。



小島高史さん

「医学生になった理由はYouTubeで民医連の医師の動画を見たから」。東海大学医学部3年生・埼玉民医連選手生



あるのですが、まずはそれが目標で
す。民医連の病院などで見てきたこ
とと大学病院とちょっと違うと思う
ので、その違いも含めてちゃんと勉
強したいです。そして、将来民医連

…おふたりともすばらしいです
ね。私もがんばろうと思いました。
自分らしく、もっと輝ける年にし
ていきましょう。

ありがとうございました。

でしつかり働けるようにがんばりました。
いなと思っています。

1. そろそろ日本国憲法も80歳

今年は日本国憲法が生まれて（公布されて）80年を迎える年です。この国に生きる人々に人権が保障されてからやつと80年、と考えると、まだまだ浅い歴史のようにも思えます。また、選挙の投票率の低さや、排外主義的な声の高まり、またジエンダーの意識や格差がなかなか解消されない現状は、いまだ日本社会に「人権」と「民主主義」の思想が根付いていないことがうかがえます。それを改めて強く感じたのは昨年11月でした。

2. 首相や政府を批判すると

「非国民」「スパイ」！？

昨年11月7日、高市首相が就任早々に「台湾有事は『存立危機事態』になり得る」と国会で答弁したことから始まる（アメリカもからんだ）日中関係の急激な悪化と社会・経済の動搖はご存じのとおりです。中国は高市発言を「内政干渉」だとして猛抗議して事実上の対抗措置をとっていますが、歴代首相が日中の軍事的緊張を高めないよう、あえて、そのような発言に踏み込まなかつたことを考えれば、不用意な発言で深刻な危機を招いた高市首相の責任は辞任に値するほど重大です。

台湾と中国との武力衝突になぜ日本が参戦することになるのか、その論理も不

シリーズ

いま、なぜ憲法改悪なのか パートII



⑭ 首相を批判したら「非国民」？～おかしな「翼賛」を食い止めるために



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表 黒澤いつき
公式ブログ <https://www.asuno-jiyuu.com/>

明で、従来の政府見解から逸脱し、憲法9条を踏みにじっています。

首相に批判や辞任を求める声が上がったのは当然ですが、それに対してSNS上では「そんな批判は相手国を利する」「非国民だ」などの非難が湧き上がりました。さらにTV番組では複数の芸能人が立て続けに「（批判する人は）日本人じゃないの？」、「国内で政権をたたくのは相手の思うつぼ」などと発言し話題になりました。

表現の自由や報道の役割、民主主義が、きちんと理解されていない危機を感じます。

3. 「報道」の役割

私たち市民は日々の報道を通じて政治の最前線や政治家の動向を知り、考えを深め、議論します。民主主義国家において、マスメディアは市民の代わりに政治を監視して、何が起きどのような問題があり、野党がなぜ批判するのか、市民に伝える使命・責任があります。

権力を維持・拡大したい政府にとって、都合の悪い（支持を失いかねない）報道はジャマです。だからこそこの国でも、政治家はメディアを懷柔したり、圧力をかけたり、コントロールを試みます。自らの使命をきちんと自覚しているマスメディアであれば、懷柔を拒み、圧力にはひるみません。

つまり、政府や首相を悪く言つてはい

けない、とマスメディアが批判を自肅することは、マスメディアの責任放棄で、「翼賛」です。マスメディアの「報道の自由」は、人が自由に考え・発信し、より豊かな民主主義国家を作り上げるために保障されているので、自ら批判をやめてしまうなら、民主主義の「死」に直結するわけです。

4. 豊かな民主主義社会のために

マスメディアが政府批判を自肅することで、得をするのは、政府（権力）です。私たち市民は政治を正確に知つたり批判的に考える手段を失い、何も議論できず、民主主義は致命的に劣化します。そういう翼賛体制が、勝つ見込みのない戦争へまつしぐらな世論を作り、破滅を招いた歴史を、忘れてはいけません。

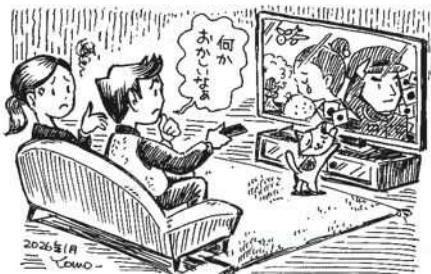
幸いにして、私たちには表現の自由や参政権が保障されています。自由や民主主義は「不斷の努力」をしないと失ってしまいます（憲法12条）。だから職場でも、家庭でも、SNSでも、表現の自由を思いつきり行使して、政治への疑問・不安・批判の声をあげましょう。批判しなければ、結果的に「黙認した」と同じになってしまいます。

だれもが平穏に生きられる、豊かな民主主義社会を求めて、私も一人の主権者として、また一人の母親として、2026年もがんばらねば！と思ひます。

シリーズ

縮図からみる世界【92】

斎藤 貴男



テレビドラマとは時代を映す鏡だ

「風化」ということについて考えた。先の戦争を扱った最近のテレビドラマをいくつか観て、強烈な違和感を抱いたのがキッカケだ。

もちろん、政権与党やら軍産複合体やらに阿つて、早く米軍のアメリカの手駒として、彼らの戦争で血を流そーゼ！なんて呼びかけてくる作品など表には出てこない。みなさん基本的に反戦平和を追い求め、頑張って製作されている。よいことだと思う。

でも、なんだか、とても変なのだ。

たとえば空襲に遭った母と子が、生き別れになつたと思いきや、いつも簡単に再会できてしまう。殺さなければ殺される戦場の切羽詰まつた緊迫感がまるで伝わってこなかつたり、戦災孤児たちの着ている服が糊のきいたワイシャツみたいに綺麗だつたり。実に淡泊なのである。どのドラマがどうで、なんてここまでいちいち言い募ろうとは思わない。ただ、どうしても看過できないものもあつた。

さる8月に放送されたNHKスペシャル終戦80年ドラマ「シミュレーション～昭和16年夏の敗戦」。近衛文麿内閣において官民の俊才が集い、対米回線に踏み切れば日本の敗戦は明白だとする結論を出したが時の政権に無視されたこ

とで知られる「総力戦研究所」の物語だったが、ここに登場した当時の所長役が、史実とは正反対の、凄まじくも悪辣かつ卑劣な小悪党に仕立て上げられていたのだ。

実在した飯村穰所長（故人）の孫でフランス大使などを歴任した元外交官の飯村豊氏（1946年生まれ）は激怒し、NHKや石井裕也監督を名誉棄損で提訴する意向。法廷での決着はまだ先の話だろうが、筆者の取材によれば、戦争をドラマ化し、教訓的なエンタメとして広く視聴してもらおうとするにしては、製作側の姿勢がいかにも安易で、軽々しかつた。

前述の一般的具体例等とも合わせて思った。戦後も30年以上も経つてから生まれた監督やスタッフたちにとっては、もはやあの戦争も応仁の乱も大化の革新も、さほどの差もない遠い過去でしかないのかもしれない、と。

良かれ悪しかれ、テレビドラマとは時代を映す鏡だ。戦争がすっかり風化しつつある現代の日本で、新しい首相は非核3原則の見直しを言いい出した。

人は忘却するから生きていくことができる、という。なるほど真理だが、原爆の絶望まで忘れてしまつたら、今度こそお終いだ。

斎藤 貴男（さいとう たかお）

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国バーミンガム大学大学院修了。主な著書に『驕る権力、燐るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』『いちばんたいせつなもの』『マイナンバーが日本を壊す』『マスゴミって言うな！』『こんな部活あります 正射必中！弓道部』（2024.3）など。



沖縄に連帯して

名護市長選を見据えた高市政権の「政治判断」

戻ってきた砂杭打設船と土砂投入の現場

沖縄防衛局は11月28日、大浦湾に建築された中仕切り護岸で囲まれた区域に埋立て土砂を投入し、「大浦湾で本格的な土砂投入が始まった」とマスコミを使って大々的に宣伝しました。

しかし、土砂投入が開始された区域は軟弱地盤の範囲ではないため、2023年12月の「代執行」以降、比較的早期に開始されたN1、N8の二つの中仕切り護岸建築工事で囲まれた場所で、護岸自体は半年以上も前に完成しており、このタイミングでの土砂投入は、名護市長選挙を見据えた高市政権の「政治判断」によるものではないかと考えています。大浦湾では半年近くも地盤改良工事が中断されていて、この実態を幾つかのマスコミで取り上げられていましたが、「政治判断」に

合わせるかのように、砂杭打設作業船が戻ってきましたが、1週間が過ぎても動き出す様子は見られず、「砂杭打設も動いている」というフェイクニュースを流してもらうために戻したのではないかと考えています。いずれにせよ、大浦湾の工事が「次の段階」に進んだ、だから新基地建設は止まらないし市長選挙でも辺野古は争点にならない、と名護市民に思わせるのが今回の「政治判断」の真の目的ではないかと考えています。

それでも、地盤改良工事で軟弱地盤の問題が100%解決されるのかが、辺野古新基地建設が完成するかしないかの一番大事な問題であるはずですが、政府の答弁は「水深70メートル以深は固いと類推される」のままで、既成事実だけを積み上げて、本当に完成できるのかどうかの判断を先送りし続けています。政府が判断できないのであれば、名護市長選挙で新基地建設の実像をしつかりと訴え、改めて名護市民のNOの判断

がった可能性があると思っています。

大浦湾では、この土砂投入に合わせるかのように、砂杭打設作業船が戻ってきましたが、1

週間が過ぎても動き出す様子は見られず、「砂杭打設も動いている」というフェイクニュースを流してもらうために戻したのではないかと考えています。いずれにせよ、大浦湾の工事が

辺野古大浦湾側土砂投入
（沖縄新聞）

工事長期化 予算編成へ進展主張も
（琉球新報）

大浦湾への土砂投入を伝える琉球新報紙

○カンパ送付先
郵便振替口座 加入者名：沖縄県統一連
口座番号：01710-8-62723

市長が変われば新基地建設は止められます。全国からのご支援、宜しくお願いします。

2025年12月2日 沖縄民医連共済会連絡会 会長 濑長和男

=表紙のコメント=

いわさきちひろ 「大きなリボンの少女」(1967年)

大きなリボンを髪に結んだ少女の表情はとても晴れやかです。リボンと蝶、羽根のかたちがリズムを奏で、画面に軽やかな印象を与えています。羽子板の羽根の先の黒い玉は、無患子むくろじという木の種です。子が患わないと書くことから、お正月の羽子板には、子どもが健やかに成長しますようにという願いが込められています。

●ちひろ美術館・東京では、「装いの翼 いわさきちひろ 茨木のり子 岡上淑子」展を10月31日～2月1日まで開催中です。

●安曇野ちひろ美術館は、2月28日まで冬期休館となります。

みなさまにとって、新たな年が希望に満ちあふれますように。
今年もよろしくお願ひいたします。



ちひろ美術館・東京 TEL.03-3995-0612

安曇野ちひろ美術館 TEL.0261-62-0772

開館情報はホームページをご確認ください。 <https://chihiro.jp/>

